

## 目次

新装新版まえがき	9
はじめに	13
一 問題の提起と研究目的	13
二 用語と資料、構成	21
<b>第一章 大韓民国樹立前後の賠償問題</b>	
第一節 八・一五直後の民間補償要求と南朝鮮過渡政府の対日賠償要求	31
一 民間補償要求	31
（一）労働者の要求	31
（二）戦争被害者団体の要求	34
（三）「戦災同胞」の要求	36
二 南朝鮮過渡政府の対日賠償要求	38
（一）米軍政下における対日賠償問題	38
（二）対日賠償要求の原型	41

第二節 李承晩政権の対日賠償要求	49
一 『対日賠償要求調査』の作成	49
二 『対日賠償要求調査』の内容と意義	53
(一) 『調査』の内容	53
(二) 『調査』の意義	60
(三) アメリカと日本の対応	61
(一) アメリカの対応——植民地問題の排除	61
(二) 日本政府の「朝鮮近代化貢献」論	65
(三) 引揚日本人の「私有財産補償要求運動」	68

## 第二章 一九五〇年代 李承晩政権下の請求権交渉

第一節 第一次交渉再考	73
一 サンフランシスコ講和会議参加の挫折と日韓交渉開催	73
二 基本条約問題をめぐる論議	84
三 請求権問題をめぐる論議	90
四 第一次交渉の決裂と日韓両国内の反応	99

第二節 第二次交渉から第四次交渉まで	104
一 第三次交渉と「久保田発言」	104
二 第三次交渉以後の冷戦論理と「防日」ナショナルリズム	115
三 第四次交渉と在日朝鮮人の「北送」問題	125

## 第三章 一九六〇年代 張勉政権下の請求権交渉

第一節 張勉政権の「韓日経済協調」論	135
一 「韓日経済協調」論と請求権問題——妥協への道筋	135
二 韓国内の世論——批判と支持の衝突	145
三 日本の対応——「経済協力」方式の提示	152
第二節 第五次交渉での請求権論議	157
一 「米國務省覚書」をめぐる論争	157
二 「請求権八項目」の討議——法律論と事実関係	160
三 個人請求権をめぐる論争	168

## 第四章 一九六〇年代 朴正熙政権下の請求権交渉

第一節 朴正熙政権の「韓日経済協力」論	177
第二節 第六次交渉での請求権論議——法律理論・事実関係論争	184
一 一般請求権小委員会	185
二 第一次政治会談（小坂・崔外相会談）	197
第三節 請求権交渉の妥結——「経済協力」方式の確定	203
一 第二次政治会談予備折衝	203
二 第二次政治会談（大平・金会談）	209
三 「経済協力」論議	218
第四節 アメリカの「不干渉政策」の変化	224
第五節 日韓条約の締結と批准	235

## 第五章 日韓条約をめぐる韓国内の葛藤

第一節 朴正熙政権の日韓条約締結の論理	253
一 韓国側首席代表の論理——裴義煥と金東祚	253
二 韓国政治家の論理——元容奭・金溶植・金鍾泌	259
第二節 韓国での日韓条約反対運動の論理	263
一 日韓条約批判の思想的前提——「日帝近代化論」批判と「新植民主義」批判	264
二 日韓条約批判	269
（一）基本条約	269
（二）財産請求権・経済協力協定	277
三 日韓条約反対運動の対案——「韓国民族主義」・脱冷戦・新たな日韓関係	287
（一）「韓国民族主義」——民衆・世界・自立経済・統一	287
（二）脱冷戦——アメリカの日韓交渉介入批判・韓国軍のベトナム派兵批判	292
（三）新たな日韓関係	294

第三節 日韓交渉下における植民地支配・戦争被害者の「静かな抵抗」、「沈黙」、「忘却」……………	300
一 財産を失った人々……………	302
二 在韓原爆被害者……………	304
三 「徴用」・「徴兵」された被害者と遺族……………	310
四 対日民間補償法の制定……………	318
五 「静かな抵抗」、「沈黙」、「忘却」……………	321
おわりに……………	325
一 要約……………	325
二 日韓請求権交渉と日朝交渉……………	337
註……………	347
あとがき……………	399
参考文献……………	403
人名索引……………	403